

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20H00073

研究課題名(和文)大規模・高頻度データを用いた資産価格変動のリスクと景気循環の計量分析

研究課題名(英文) Econometric analysis of risk of asset price fluctuations and business cycles using big and high-frequency data

研究代表者

渡部 敏明 (WATANABE, Toshiaki)

一橋大学・経済研究所・教授

研究者番号：90254135

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,800,000円

研究成果の概要(和文)：資産価格変動のリスク指標であるボラティリティに関して、日次および日中のボラティリティ変動の新たなモデル化や日本の分散リスクプレミアムについて実証分析を行った。また、金融政策アナウンスメントは、マクロ不確実性を変動させる経路を通じてGDPなどの実態経済変数に影響を及ぼすことを明らかにした。さらに、新型コロナウイルスの感染予防と経済活性化の間には短期的にはトレードオフ関係があるものの、長期的には、感染予防を充分に行わない限り、経済活動の活発化は達成できないことと、世界の人口の90%以上、生産活動の70%以上が地球規模での異常高温や大雨のリスクに晒されていることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、資産価格変動のリスク指標であるボラティリティの変動を表す新たなモデルを構築し、そのモデルによって導出したVaRや期待ショートフォールなどの分布の裾のリスク指標の精度が高いことを示した。これは、学術的にも重要であるが、金融実務にとっても重要な成果である。また、マクロ経済の不確実性、新型コロナウイルス、自然災害といった様々なリスクやその経済活動への影響も明らかにした。これも学術的にも重要であるだけでなく、政策当局にとっても重要な成果である。

研究成果の概要(英文)：We obtained many research results on volatility, which is a risk indicator of asset price fluctuations. Specifically, we constructed new models for daily and intraday volatility fluctuations and obtained new results by conducting empirical analyses on Japan's variance risk premium. We also studied macroeconomic uncertainty and found that monetary policy announcements affect real economic variables such as GDP through channels that change macroeconomic uncertainty. In addition, we also studied the risks of COVID-19 and climate change. We showed that in the long run, economic activation cannot be achieved unless infection prevention is adequately implemented while there is a short-term trade-off relationship between preventing COVID-19 infection and revitalizing the economy. We also revealed that more than 90% of the world's population and more than 70% of production activities are exposed to the risk of abnormally high temperatures and heavy rains on a global scale.

研究分野：経済政策

キーワード：ボラティリティ マクロ経済 高頻度データ 早期警戒指標 金融・財政政策

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

株価や債券価格などの資産価格は将来の景気の予想に基づいて決まるので、株価指数や長短金利差などは景気の先行指標として用いられる。それに加えて、近年、資産価格の変動リスクに関連する変数が景気に対して予測力を持つとの研究結果が得られている。例えば、社債と国債の利回りの差である信用スプレッドのうちの各社債のリスク要因で説明できない変動を合計したものは超過債権プレミアムと呼ばれ、投資家のリスクアペタイトを表すとされる。米国ではこれが景気の先行指標として注目されている。また、資産価格変化率(リターン)の分散(もしくは標準偏差)を表すボラティリティには、オプション価格から計算されるボラティリティと原資産の過去のリターンから計算されるボラティリティがある。オプション価格から計算されるボラティリティと過去のリターンから予測したボラティリティの差は分散リスクプレミアムと呼ばれ、渡部と生方は日経 225 株価指数の分散リスクプレミアムが日本の景気に対して予測力を持つことを明らかにしている。また、GDP や消費者物価指数などのマクロ経済指標や政策当局の金融・財政政策の公表時にそれが予期せざるものであれば、資産価格やそのボラティリティが反応するはずである。

2. 研究の目的

本研究では、資産価格と景気およびマクロ経済変数との相互関係を理論的・実証的に解明した上で、景気後退の早期警戒指標の構築や資産価格とそのボラティリティおよび景気やマクロ経済変数の変動をより正確に表す計量モデルとその推定法の開発を行う。データには通常のマクロ経済変数に加えて、資産価格の高頻度データや、新聞等の文字情報をテキスト・マイニングによって数値化することにより、資産市場や景気のセンチメント指標を作成して利用する。その上で、構築したモデルを用いて金融・財政政策の効果を分析し、その結果に基づいて望ましい政策を提言する。

3. 研究の方法

これまで、資産価格やその変動リスクの研究はファイナンスの研究者、景気の研究はマクロ経済学の研究者によって独立に行われることが多かった。本研究では、マクロ経済学を専門とする塩路、新谷、加納、陣内、森田とファイナンスを専門とする渡部、生方が協力することにより、資産価格と景気およびマクロ経済変数との相互関係について理論・実証分析をマクロ経済学とファイナンスの両方の観点から行うことが特徴である。さらに計量経済学の研究者である渡部、大森、新谷、山本が加わることにより、新たな計量モデルや推定法の開発まで行う。新谷は AI を使った研究を行っているので、新聞等の資産価格や景気に関する文字情報もテキスト・マイニングを用いて数値化して用いることができる。これにより、多岐にわたって研究が行えるので多くの研究成果を期待できる。また、これまでの資産価格のボラティリティの変動を表すモデルは主に日次ボラティリティの変動をモデル化していたが、本研究ではボラティリティの日中の時間帯の周期性やマクロ経済指標や政策当局の金融・財政政策の公表時のボラティリティの反応を考慮した日中ボラティリティの変動をモデル化し、それを資産価格の高頻度データを用いて推定する点が新しい。

4. 研究成果

資産価格変動のリスク指標であるボラティリティに関して多くの研究成果が得られた。具体的には、(1)日次および日中のボラティリティ変動の新たなモデル化を行い、マルコフ連鎖モンテカルロ法を用いたベイズ推定法を開発した。また、このモデルを用いることで、ボラティリティの予測精度や、Value-at-Risk や期待ショートフォールといった金融実務でも用いられている分布の裾のリスクの計算精度が高まることを示した。さらに、日中のボラティリティ変動を表すモデルでは、日本の GDP、鉱工業生産指数、消費者物価指数の公表や日銀の金融政策決定会合の結果発表が日経 225 株価指数の日中ボラティリティに与える影響を分析し、金融政策決定会合の結果発表だけが影響を与えていることを明らかにした。(2) 多変量の株価収益率の時系列において、株価収益率がいくつかのグループに分けることができる場合の、分散や相関係数の変動を説明する統計モデルを構築した。それに高頻度データによって得られる実現分散、実現相関係数を観測方程式に加えることで、モデル・パラメータの推定精度の改善を行った。推定方法としてマルコフ連鎖モンテカルロ法による効率的な推定方法を開発し、米国の株価収益率に応用しポートフォリオのパフォーマンスにおいて優れていることを示した。(3)日本の分散リスクプレミアムについて実証分析を行い、日本の分散リスクプレミアムの通常の価格変動に起因する要素と将来の景気動向指数の有意な負の関係および将来の社債スプレッドとの有意な正の関係は新型コロナウイルスの期間で頑健であるが、VRP の価格ジャンプに起因する要素と将来の社債スプレッドの有意な正の関係は新型コロナウイルスの期間を含めると現れないことなど、新たな結果を示した。

資産価格とマクロ経済の関係についても以下の研究成果が得られた。(4)5分刻みの高頻度データを用いて、為替レートのマクロ経済指標のニュースへの反応を測定した。その結果、リーマンショック後には円ドルレートの日本のニュースに対する反応が弱まっていることがわかった。(5)金利先物市場の高頻度データから金融政策ショックの指標を計算し、金融政策の資産市場に与える影響を分析した。

その他、マクロ経済についても以下の研究成果が得られた。(6)金融政策アナウンスメントが、マクロ経済の不確実性を変動させる経路を通じて GDP などの実態経済変数に影響を及ぼすことを明らかにした。(7)大型マクロモデルを用いて金融政策の効果を計測する手法を開発し、日本の2013年から2020年までの期間における大規模な金融緩和が实体经济に相応のプラスの影響を与えたことを示した。(8)マクロ経済変数の動きを説明するための動学的マクロ経済モデルを推計し、政策効果評価を行った。(9)金融市場に端を発するマクロ経済へのショックが経済成長に与える影響を考慮に入れれば、マクロ経済モデルにおける予測がデータと整合的になることを明らかにした。(10)米国経済における1980年代半ば以降のGreat Moderation(大安定期)の原因が、より適切な経済政策(Good Policy)か、技術進歩などショックの分散が低下した「幸運(Good Luck)」か、議論が分かれており、本研究で開発した係数と分散における構造変化の同時検定の手法を米国実質GDPおよび各コンポーネントに適用し、後者の要因が大きいことを明らかにした。(11)高齢化の進行と財政乗数の関係に関する研究を行った。(12)物価上昇率、不確実性指数、経常収支等の経済変数を説明するための動学的マクロ経済モデルを推計し、将来予測や政策効果評価を行った。(13)経済成長理論の要素と、金融市場の摩擦という要素を取り込んだ構造マクロモデルのベイズ推定を行い、金融市場への負のショックが大きな役割を演じたことを明らかにした。

さらに、新型コロナウイルスや自然災害のリスクについても分析を行い、(14)新型コロナウイルスの感染予防と経済活性化の間には短期的にはトレードオフ関係があるものの、長期的には、感染予防を充分に行わない限り、経済活動の活発化は達成できないことと、(15)世界の人口の90%以上、生産活動の70%以上が地球規模での異常高温や大雨のリスクに晒されていることを明らかにした。

最後に、計量手法についても以下の研究成果が得られた。(16)線形回帰モデルの分散の構造変化について新たな手法を提案し、米国のGDPデータを用いて1980年代半ばから続く大平穩期はリーマンショックを経ても終わっていないことを示した。(17)マクロ変数の因果性を分析するために一般的な系列相関構造を許容する時系列モデルの理論分析を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計36件（うち査読付論文 36件 / うち国際共著 13件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 Chen Cathy W.S., Hsu Hsiao-Yun, Watanabe Toshiaki	4. 巻 51
2. 論文標題 Tail risk forecasting of realized volatility CAViaR models	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Finance Research Letters	6. 最初と最後の頁 103326 ~ 103326
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.frl.2022.103326	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Kano Kazuko, Kano Takashi, Takechi Kazutaka	4. 巻 22
2. 論文標題 The price of distance: pricing-to-market and geographic barriers	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Economic Geography	6. 最初と最後の頁 873 ~ 899
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jeg/lbab013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Estrada Francisco, Perron Pierre, Yamamoto Yohei	4. 巻 13
2. 論文標題 Anthropogenic influence on extremes and risk hotspots	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 1 ~ 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-022-27220-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Yamamoto Yohei, Hara Naoko	4. 巻 37
2. 論文標題 Identifying factor augmented vector autoregression models via changes in shock variances	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Applied Econometrics	6. 最初と最後の頁 722 ~ 745
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jae.2894	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Perron Pierre、Yamamoto Yohei	4. 巻 43
2. 論文標題 Structural change tests under heteroskedasticity: Joint estimation versus two steps methods	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Time Series Analysis	6. 最初と最後の頁 389 ~ 411
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jtsa.12619	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Guerron-Quintana Pablo A.、Hirano Tomohiro、Jinnai Ryo	4. 巻 15
2. 論文標題 Bubbles, Crashes, and Economic Growth: Theory and Evidence	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 American Economic Journal: Macroeconomics	6. 最初と最後の頁 333 ~ 371
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1257/mac.20220015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 陣内 了	4. 巻 150
2. 論文標題 資産価格バブルに関するマクロ経済学的分析と政策的含意	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 フィナンシャル・レビュー	6. 最初と最後の頁 76 ~ 92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.57520/prifr.150.0_76	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Awaya Naoki、Omori Yasuhiro	4. 巻 6
2. 論文標題 Particle rolling MCMC with double-block sampling	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Statistics and Data Science	6. 最初と最後の頁 305 ~ 335
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s42081-022-00170-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kubota Hiroyuki、Shintani Mototsugu	4. 巻 73
2. 論文標題 High-frequency identification of monetary policy shocks in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Japanese Economic Review	6. 最初と最後の頁 483 ~ 513
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s42973-021-00110-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Huang Kevin X. D., Katayama Munechika, Shintani Mototsugu, Tsuruga Takayuki	4. 巻 60
2. 論文標題 Sticky wages in a world of ideas	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Economic Inquiry	6. 最初と最後の頁 1757 ~ 1781
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ecin.13090	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 IIBOSHI HIROKUNI、SHINTANI MOTOTSUGU、UEDA KOZO	4. 巻 54
2. 論文標題 Estimating a Nonlinear New Keynesian Model with the Zero Lower Bound for Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Money, Credit and Banking	6. 最初と最後の頁 1637 ~ 1671
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jmcb.12908	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ubukata Masato	4. 巻 63
2. 論文標題 A time-varying jump tail risk measure using high-frequency options data	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Empirical Economics	6. 最初と最後の頁 2633 ~ 2653
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00181-022-02209-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawamoto Takuji, Nakazawa Takashi, Kishaba Yui, Matsumura Kohei, Nakajima Jouchi	4. 巻 78
2. 論文標題 Estimating the macroeconomic effects of Japan's expansionary monetary policy under Quantitative and Qualitative Monetary Easing during 2013?2020	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Economic Analysis and Policy	6. 最初と最後の頁 208 ~ 224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.eap.2023.03.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chen Cathy W.S., Watanabe Toshiaki, Lin Edward M.H.	4. 巻 -
2. 論文標題 Bayesian estimation of realized GARCH-type models with application to financial tail risk management	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Econometrics and Statistics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ecosta.2021.03.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Takahashi Makoto, Watanabe Toshiaki, Omori Yasuhiro	4. 巻 -
2. 論文標題 Forecasting Daily Volatility of Stock Price Index Using Daily Returns and Realized Volatility	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Econometrics and Statistics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ecosta.2021.08.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shioji Etsuro	4. 巻 98
2. 論文標題 Pass-through of oil supply shocks to domestic gasoline prices: evidence from daily data	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Energy Economics	6. 最初と最後の頁 105214 ~ 105214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.eneco.2021.105214	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fukao Mitsuhiro, Shioji Etsuro	4. 巻 17
2. 論文標題 Is There a Trade Off between COVID 19 Control and Economic Activity? Implications from the Phillips Curve Debate	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Economic Policy Review	6. 最初と最後の頁 66 ~ 85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/aepr.12361	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Perron Pierre, Yamamoto Yohei	4. 巻 43
2. 論文標題 Structural change tests under heteroskedasticity: Joint estimation versus two steps methods	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Time Series Analysis	6. 最初と最後の頁 389 ~ 411
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jtsa.12619	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamamoto Yohei, Hara Naoko	4. 巻 37
2. 論文標題 Identifying factor augmented vector autoregression models via changes in shock variances	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Applied Econometrics	6. 最初と最後の頁 722 ~ 745
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jae.2894	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto Yohei, Horie Tetsushi	4. 巻 39
2. 論文標題 A CROSS-SECTIONAL METHOD FOR RIGHT-TAILED PANIC TESTS UNDER A MODERATELY LOCAL TO UNITY FRAMEWORK	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Econometric Theory	6. 最初と最後の頁 389 ~ 411
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0266466622000044	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Perron Pierre, Yamamoto Yohei	4. 巻 62
2. 論文標題 The great moderation: updated evidence with joint tests for multiple structural changes in variance and persistence	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Empirical Economics	6. 最初と最後の頁 1193 ~ 1218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00181-021-02047-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 GUERRON QUINTANA PABLO A., JINNAI RYO	4. 巻 54
2. 論文標題 On Liquidity Shocks and Asset Prices	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Money, Credit and Banking	6. 最初と最後の頁 2519 ~ 2546
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jmcb.12928	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Chu Amanda M.Y., Omori Yasuhiro, So Hing-yu, So Mike K.P.	4. 巻 -
2. 論文標題 A Multivariate Randomized Response Model for Sensitive Binary Data	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Econometrics and Statistics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ecosta.2022.01.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 MUKOYAMA TOSHIHIKO, SHINTANI MOTOTSUGU, TERAMOTO KAZUHIRO	4. 巻 53
2. 論文標題 Cyclical Part Time Employment in an Estimated New Keynesian Model with Search Frictions	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Money, Credit and Banking	6. 最初と最後の頁 1929 ~ 1968
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jmcb.12846	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Goshima Keiichi、Ishijima Hiroshi、Shintani Mototsugu、Yamamoto Hiroki	4. 巻 25
2. 論文標題 Forecasting Japanese inflation with a news-based leading indicator of economic activities	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Studies in Nonlinear Dynamics & Econometrics	6. 最初と最後の頁 111 ~ 133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/snde-2019-0117	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Andersen Torben G.、Todorov Viktor、Ubukata Masato	4. 巻 222
2. 論文標題 Tail risk and return predictability for the Japanese equity market	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Econometrics	6. 最初と最後の頁 344 ~ 363
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jeconom.2020.07.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Morita Hiroshi	4. 巻 108
2. 論文標題 On the relationship between fiscal multipliers and population aging in Japan: Theory and empirics	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Economic Modelling	6. 最初と最後の頁 105772 ~ 105772
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.econmod.2022.105772	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋慎、渡部敏明、大森裕浩	4. 巻 68
2. 論文標題 Realized stochastic volatilityモデル - 拡張と日本の株価指数への応用 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 統計数理	6. 最初と最後の頁 65 ~ 85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kurose Yuta, Omori Yasuhiro	4. 巻 13
2. 論文標題 Multiple-block dynamic equicorrelations with realized measures, leverage and endogeneity	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Econometrics and Statistics	6. 最初と最後の頁 46 ~ 68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ecosta.2018.03.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Etsuro Shioji	4. 巻 33
2. 論文標題 Response of bank loans to the bank of Japan's quantitative and qualitative easing policy: A panel data analysis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Seoul Journal of Economics	6. 最初と最後の頁 355 ~ 394
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.22904/sje.2020.33.3.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Maehashi Kohei, Shintani Mototsugu	4. 巻 58
2. 論文標題 Macroeconomic forecasting using factor models and machine learning: an application to Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 101104 ~ 101104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2020.101104	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iwasaki Yuto, Muto Ichiro, Shintani Mototsugu	4. 巻 132
2. 論文標題 Missing wage inflation? Estimating the natural rate of unemployment in a nonlinear DSGE model	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 European Economic Review	6. 最初と最後の頁 103626 ~ 103626
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.eurocorev.2020.103626	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KANO TAKASHI	4. 巻 53
2. 論文標題 Exchange Rates and Fundamentals: A General Equilibrium Exploration	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Money, Credit and Banking	6. 最初と最後の頁 95 ~ 117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jmcb.12698	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Perron Pierre, Yamamoto Yohei, Zhou Jing	4. 巻 11
2. 論文標題 Testing jointly for structural changes in the error variance and coefficients of a linear regression model	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Quantitative Economics	6. 最初と最後の頁 1019 ~ 1057
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3982/QE1332	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Perron Pierre, Yamamoto Yohei	4. 巻 39
2. 論文標題 Testing for Changes in Forecasting Performance	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Business & Economic Statistics	6. 最初と最後の頁 148 ~ 165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/07350015.2019.1641410	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 GUERRON QUINTANA PABLO A., JINNAI RYO	4. 巻 54
2. 論文標題 On Liquidity Shocks and Asset Prices	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Money, Credit and Banking	6. 最初と最後の頁 2519 ~ 2546
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jmcb.12928	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計81件（うち招待講演 46件 / うち国際学会 71件）

1. 発表者名 Toshiaki Watanabe, Jouchi Nakajima
2. 発表標題 High-frequency realized stochastic volatility model
3. 学会等名 一橋大学経済研究所共同利用・共同研究拠点プロジェクト「動学的パネルデータモデルによる多国間経済及びファイナンス波及分析」研究集会（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Toshiaki Watanabe, Jouchi Nakajima
2. 発表標題 Time-varying parameter heterogeneous autoregressive model with stochastic volatility
3. 学会等名 Webinar of Bayesian Econometrics 2023（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Makoto Takahashi, Yuta Yamauchi, Toshiaki Watanabe, Yasuhiro Omori
2. 発表標題 Realized stochastic volatility models with skew-t distributions
3. 学会等名 Webinar of Bayesian Econometrics 2023（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Jouchi Nakajima, Toshiaki Watanabe
2. 発表標題 High-frequency realized stochastic volatility model with the generalized hyperbolic skew Student's t-distribution
3. 学会等名 The 16th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE 2022)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Makoto Takahashi、Yuta Yamauchi、Toshiaki Watanabe、Yasuhiro Omori
2. 発表標題 Realized stochastic volatility models with skew-t distributions
3. 学会等名 The 5th International Conference on Econometrics and Statistics (EcoSta 2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Daisuke Nagakura、Toshiaki Watanabe
2. 発表標題 State-space method for the quadratic estimator of integrated variance in the presence of market microstructure noise
3. 学会等名 The 5th International Conference on Econometrics and Statistics (EcoSta 2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Toshiaki Watanabe、Jouchi Nakajima
2. 発表標題 High-frequency realized stochastic volatility model
3. 学会等名 The 16th International Symposium on Econometric Theory and Applications (SETA2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Responses of households' expected inflation to oil prices and the exchange rate: evidence from daily data
3. 学会等名 一橋大学経済研究所共同利用・共同研究拠点プロジェクト「動学的パネルデータモデルによる多国間経済及びファイナンス波及分析」研究集会 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Responses of households' expected inflation to oil prices and the exchange rate: Evidence from daily data
3. 学会等名 16th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 塩路悦朗
2. 発表標題 外的要因は日本に持続的インフレをもたらすか
3. 学会等名 日本金融学会2022年度秋季大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 Responses of households' expected inflation to oil prices and the exchange rate: Evidence from daily data
3. 学会等名 The 16th International Symposium on Econometric Theory and Applications (SETA2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 The pandemic and government bonds: Evidence from volatility smiles in Japan
3. 学会等名 5th International Conference on Econometrics and Statistics (Ecosta 2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuko Kano, Takashi Kano
2. 発表標題 Welfare costs of exchange rate fluctuations: evidence from the 1972 Okinawa reversion
3. 学会等名 28th International Conference of the Society for Computational Economics (CEF 2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takashi Kano
2. 発表標題 Posterior inferences of incomplete structural models: the minimal econometric interpretation
3. 学会等名 16th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Francisco Estrada, Pierre Perron, Yohei Yamamoto
2. 発表標題 Anthropogenic Influence on Global Increase in Extreme Heat and Precipitation with Implications for Risk Hotspots
3. 学会等名 NBER-NSF Time Series Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Francisco Estrada, Pierre Perron, Yohei Yamamoto
2. 発表標題 Anthropogenic Influence on Extremes and Risk Hotspots
3. 学会等名 Transdisciplinary Econometrics and Data Science Seminar / Economics Seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Guerron-Quintana Pablo A、Tomohiro Hirano、Ryo Jinnai
2. 発表標題 Bubbles, Crashes, and Economic Growth: Theory and Evidence
3. 学会等名 Greater Fool Bubbles Seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yasuhiro Omori
2. 発表標題 Stochastic volatility and realized stochastic volatility models
3. 学会等名 5th International Conference on Econometrics and Statistics (EcoSta2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yasuhiro Omori
2. 発表標題 Bayesian estimation of multivariate stochastic volatility models using dynamic factors
3. 学会等名 5th International Conference on Econometrics and Statistics (EcoSta2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Amanda M.Y. Chu、Yasuhiro Omori、Hing-yu So、Mike K.P. So
2. 発表標題 Multivariate randomized response for a mixed-type data
3. 学会等名 6th Eastern Asia Chapter of International Society for Bayesian Analysis (EAC-ISBA2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuta Yamauchi、Yasuhiro Omori
2. 発表標題 Dynamic factor, leverage and realized covariances in multivariate stochastic volatility
3. 学会等名 6th Eastern Asia Chapter of International Society for Bayesian Analysis (EAC-ISBA2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takamitsu Kurita、Mototsugu Shintani
2. 発表標題 Johansen test with Fourier-type smooth non-linear trends in cointegrating relations
3. 学会等名 The 5th International Conference on Econometrics and Statistics (EcoSta 2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mario J. Crucini、Mototsugu Shintani、Takayuki Tsuruga
2. 発表標題 Behavioral explanation for the puzzling persistence of the aggregate real exchange rate
3. 学会等名 The 16th International Symposium on Econometric Theory and Applications (SETA2022) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mario J. Crucini、Mototsugu Shintani、Takayuki Tsuruga
2. 発表標題 Behavioral explanation for the puzzling persistence of the aggregate real exchange rate
3. 学会等名 EEA-ESEM Congress 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yusuke Oh, Mototsugu Shintani
2. 発表標題 Nowcasting Japanese GDP using text data and machine learning
3. 学会等名 The 15th International Conference of the ERCIM WG on Computational and Methodological Statistics (CMStatistics 2022) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroyuki Kubota, Ichiro Muto, Mototsugu Shintani
2. 発表標題 Monetary policy, labor force participation, and wage rigidity
3. 学会等名 Summer Workshop on Economic Theory (SWET2022)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 生方雅人
2. 発表標題 A time-varying jump tail risk measure using high-frequency options data
3. 学会等名 応用計量経済学の展開 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小野泰輝、森田裕史
2. 発表標題 COVID-19 Uncertainty Index in Japan: Newspaper-Based Measures and Economic Activities
3. 学会等名 日本経済学会 2022 年度春季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Leonardo Melosi、Hiroshi Morita、Francesco Zanetti
2. 発表標題 The signaling effects of fiscal announcements
3. 学会等名 5th international conference on Econometrics and Statistics (EcoSta2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroshi Morita
2. 発表標題 Forecasting GDP growth using stock returns in Japan: A factor-augmented MIDAS approach
3. 学会等名 The 16th International Symposium on Econometric Theory and Applications (SETA2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Leonardo Melosi、Hiroshi Morita、Francesco Zanetti
2. 発表標題 The signaling effects of fiscal announcements
3. 学会等名 The 3rd TWID International Finance Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Leonardo Melosi、Hiroshi Morita、Francesco Zanetti
2. 発表標題 The signaling effects of fiscal announcements
3. 学会等名 Singapore Economic Review Conference 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Leonardo Melosi、Hiroshi Morita、Francesco Zanetti
2. 発表標題 The signaling effects of fiscal announcements
3. 学会等名 2022 Asian Meeting of the Econometric Society in East and South-East Asia (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Leonardo Melosi、Hiroshi Morita、Francesco Zanetti
2. 発表標題 The signaling effects of fiscal announcements
3. 学会等名 EEA-ESEM2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroshi Morita
2. 発表標題 Forecasting GDP growth using stock returns in Japan: A factor-augmented MIDAS approach
3. 学会等名 The 16th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ryo Matsumoto、Hiroshi Morita
2. 発表標題 Central Bank Information Effects in Japan: The Role of Uncertainty Channel
3. 学会等名 The HSI2022-8th Hitotsubashi Summer Institute (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Leonardo Melosi、Hiroshi Morita、Anna Rogantini-Picco、Francesco Zanetti
2. 発表標題 The signaling effects of fiscal announcements
3. 学会等名 一橋大学経済研究所共同利用・共同研究拠点プロジェクト「動学的パネルデータモデルによる多国間経済及びファイナンス波及分析」研究集会（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Jouchi Nakajima
2. 発表標題 Measuring regional economic uncertainty
3. 学会等名 The 5th International Conference on Econometrics and Statistics (EcoSta2022)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Jouchi Nakajima
2. 発表標題 Measuring regional economic uncertainty
3. 学会等名 The 6th Eastern Asia Chapter of International Society for Bayesian Analysis (EAC-ISBA) Conference（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Jouchi Nakajima、Hiroaki Yamagata、Tatsushi Okuda、Shinnosuke Katsuki、Takeshi Shinohara
2. 発表標題 Estimating firm's inflation expectations based on survey's diffusion index
3. 学会等名 The 16th International Symposium on Econometric Theory and Applications (SETA2022)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Jouchi Nakajima
2. 発表標題 Time-varying parameter local projections with stochastic volatility
3. 学会等名 Webinar of Bayesian Econometrics 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Jouchi Nakajima
2. 発表標題 Time-varying parameter local projections with stochastic volatility
3. 学会等名 The HSI2022-8th Hitotsubashi Summer Institute (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Toshiaki Watanabe, Jouchi Nakajima
2. 発表標題 High-frequency realized stochastic volatility model
3. 学会等名 The 11th Conference of the IASC-ARS The Asian Regional Section of the International Association for Statistical Computing (IASC-ARS 2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Toshiaki Watanabe, Jouchi Nakajima
2. 発表標題 Stochastic volatility models with time-varying leverage effect
3. 学会等名 The 15th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE 2021) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Toshiaki Watanabe、Jouchi Nakajima
2. 発表標題 High-frequency realized stochastic volatility model
3. 学会等名 Insper Data Science and Decision Seminar Series (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Toshiaki Watanabe、Jouchi Nakajima
2. 発表標題 High-frequency realized stochastic volatility model
3. 学会等名 HSI2021-The 7th Hitotsubashi Summer Institute (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Toshiaki Watanabe、Jouchi Nakajima
2. 発表標題 Stochastic volatility models with time-varying leverage effect
3. 学会等名 The 4th International Conference on Econometrics and Statistics (EcoSta 2021) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Toshiaki Watanabe、Jouchi Nakajima
2. 発表標題 High-frequency realized stochastic volatility model
3. 学会等名 The 4th International Conference on Econometrics and Statistics (EcoSta 2021) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Toshiaki Watanabe、Jouchi Nakajima
2. 発表標題 High-frequency realized stochastic volatility model
3. 学会等名 Applied Time Series Econometrics Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 The pandemic and government bonds: Evidence from volatility smiles in Japan
3. 学会等名 The 15th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE 2021) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加納隆、加納和子
2. 発表標題 Welfare costs of exchange rate fluctuations: Evidence from the 1972 Okinawa reversion
3. 学会等名 第23回マクロ・コンファレンス
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Pablo A. Guerron-Quintana、Tomohiro Hirano、Ryo Jinnai
2. 発表標題 Recurrent bubbles and economics growth
3. 学会等名 Seminar at Simon Fraser University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Pablo A. Guerron-Quintana、Tomohiro Hirano、Ryo Jinnai
2. 発表標題 Recurrent bubbles and economics growth
3. 学会等名 Seminar at Banco Central de Chile (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Amanda Chu、Yasuhiro Omori、Mike So、Hing-yu So
2. 発表標題 Multivariate randomized response for binary and ordinal data
3. 学会等名 The 11th Conference of the IASC-ARS The Asian Regional Section of the International Association for Statistical Computing (IASC-ARS2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Amanda Chu、Yasuhiro Omori、Mike So、Hing-yu So
2. 発表標題 Multivariate randomized response for binary and ordinal data
3. 学会等名 The 4th International Conference on Econometrics and Statistics (EcoSta 2021) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuta Yamauchi、Yasuhiro Omori
2. 発表標題 Dynamic factor, leverage and realized covariances in multivariate stochastic volatility
3. 学会等名 NBER-NSF Seminar Seminar on Bayesian Inference in Econometrics and Statistics (SBIES) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山内雄太、大森裕浩
2. 発表標題 Dynamic factor, leverage and realized covariances in multivariate stochastic volatility
3. 学会等名 2021年度 統計関連学会連合大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuta Yamauchi、Yasuhiro Omori
2. 発表標題 Dynamic factor, leverage and realized covariances in multivariate stochastic volatility
3. 学会等名 The 15th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE2021) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Makoto Takahashi、Yasuhiro Omori、Toshiaki Watanabe、Yuta Yamauchi
2. 発表標題 Realized stochastic volatility with skewed t distribution
3. 学会等名 The 15th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE2021) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mototsugu Shintani、Takamitsu Kurita
2. 発表標題 Johansen test with fourier-type smooth non-linear trends in cointegrating relations
3. 学会等名 2021 Asian Meeting of Econometric Society (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 相馬 尚人、新谷 元嗣、山本 弘樹
2. 発表標題 報道が家計のインフレ予想に与える影響について -消費動向調査のパネルデータ分析-
3. 学会等名 日本経済学会2021年度秋季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masato Ubukata
2. 発表標題 A time-varying jump tail risk measure using high-frequency options data
3. 学会等名 The 4th International Conference on Econometrics and Statistics (EcoSta 2021) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森田裕史、小野泰輝
2. 発表標題 COVID-19 uncertainty index in Japan: Newspaper-based measures and economic activities
3. 学会等名 YNUデータサイエンス・ミニコンファレンス
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroshi Morita, Francesco Zanetti and Leonardo Melosi
2. 発表標題 The signalling effects of fiscal announcements: Results from supplementary fiscal stimuli
3. 学会等名 The 15th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE2021) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroshi Morita、Francesco Zanetti、Leonardo Melosi
2. 発表標題 The signalling effects of fiscal announcements
3. 学会等名 第23回マクロ・コンファレンス
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroshi Morita
2. 発表標題 Fiscal multipliers under the effective lower bound: An empirical study in Japan
3. 学会等名 Webinar of Bayesian Econometrics 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森田裕史
2. 発表標題 Fiscal multipliers in the most aged country: Empirical evidence and theoretical interpretation
3. 学会等名 2021年度日本経済学会秋季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroshi Morita、Francesco Zanetti、Leonardo Melosi
2. 発表標題 The signalling effects of fiscal announcements: Results from event studies
3. 学会等名 HSI2021-The 7th Hitotsubashi Summer Institute (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroshi Morita
2. 発表標題 Forecasting public investment using daily stock returns
3. 学会等名 The 4th International Conference on Econometrics and Statistics (EcoSta 2021) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Toshiaki Watanabe、Jouchi Nakajima
2. 発表標題 High-frequency realized stochastic volatility model
3. 学会等名 The 14th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE 2020) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yuta Yamauchi、Yasuhiro Omori
2. 発表標題 Dynamic factor, leverage and realized covariances in multivariate stochastic volatility
3. 学会等名 Webinar of Bayesian Econometrics 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Etsuro Shioji
2. 発表標題 How policies are perceived in the market for the Japanese government bonds: Evidence from volatility smiles
3. 学会等名 BdF-FFJ Workshop on Macroeconomics and Monetary Policy (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Etsuro Shioji、Shiro Yuasa
2. 発表標題 Daily dynamics of retail gasoline price dispersion in Japan
3. 学会等名 The 14th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE 2020) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 久保田博之、新谷元嗣
2. 発表標題 High-frequency identification of unconventional monetary policy shocks in Japan
3. 学会等名 第15回若手経済学者のためのマクロ経済学コンファレンス
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mototsugu Shintani, Pierre Perron、Tomoyoshi Yabu
2. 発表標題 Trigonometric trend regressions of unknown frequencies with stationary or integrated noise
3. 学会等名 2020 Econometric Society World Congress (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yohei Yamamoto、Pierre Perron
2. 発表標題 The great moderation: Updated evidence with joint tests for multiple structural changes in variance and persistence
3. 学会等名 Economic Seminar, National Chengchi University, Taipei, Taiwan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ryo Jinnai, Pablo A. Guerron-Quintana, Tomohiro Hirano
2. 発表標題 Recurrent bubbles and economics growth
3. 学会等名 National University of Singapore Macroeconomics Seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masato Ubukata
2. 発表標題 Time-varying jump tail risk measure using high-frequency options data
3. 学会等名 HSI2020-The 6th Hitotsubashi Summer Institute (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroshi Morita
2. 発表標題 Fiscal multipliers in the most aged country: Empirical evidence and theoretical interpretation
3. 学会等名 HSI2020-The 6th Hitotsubashi Summer Institute (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroshi Morita
2. 発表標題 Fiscal multipliers in the most aged country: Empirical evidence and theoretical interpretation
3. 学会等名 Webinar of Bayesian Econometrics 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroshi Morita
2. 発表標題 Fiscal multipliers in the most aged country: Empirical evidence and theoretical interpretation
3. 学会等名 The 14th International Conference on Computational and Financial Econometrics (CFE2020) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 加納 隆	4. 発行年 2022年
2. 出版社 三菱経済研究所	5. 総ページ数 162
3. 書名 資産価格としての為替レート	

1. 著者名 森田 裕史	4. 発行年 2023年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 208
3. 書名 マクロ経済構造の分析	

1. 著者名 新谷 元嗣、前橋 昂平	4. 発行年 2022年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 224
3. 書名 Pythonによるマクロ経済予測入門	

1. 著者名 塩路 悦朗	4. 発行年 2021年
2. 出版社 三菱経済研究所	5. 総ページ数 103
3. 書名 原油価格と国内ガソリン価格	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	塩路 悦朗 (SHIOJI Etsuro) (50301180)	一橋大学・大学院経済学研究科・教授 (12613)	
研究分担者	加納 隆 (KANO Takashi) (90456179)	一橋大学・大学院経済学研究科・教授 (12613)	
研究分担者	山本 庸平 (YAMAMOTO Yohei) (80633916)	一橋大学・大学院経済学研究科・教授 (12613)	
研究分担者	陣内 了 (JINNAI Ryo) (50765617)	一橋大学・経済研究所・教授 (12613)	
研究分担者	大森 裕浩 (OMORI Yasuhiro) (60251188)	東京大学・大学院経済学研究科(経済学部)・教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	新谷 元嗣 (SHINTANI Mototsugu) (00252718)	東京大学・大学院経済学研究科(経済学部)・教授 (12601)	
研究分担者	生方 雅人 (UBUKATA Masato) (00467507)	明治学院大学・経済学部・教授 (32683)	
研究分担者	森田 裕史 (MORITA Hiroshi) (70732759)	法政大学・経済学部・准教授 (32675)	
研究分担者	中島 上智 (NAKAJIMA Jouchi) (20962062)	一橋大学・経済研究所・教授 (12613)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 Webinar of Bayesian Econometrics 2023	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 HSI2021-The 7th Hitotsubashi Summer Institute “Macro- and Financial Econometrics ”	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Webinar of Bayesian Econometrics 2021	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 HSI2020-6th Hitotsubashi Summer Institute	開催年 2020年～2020年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
その他の国・地域 台湾	Feng Chia University	Tunghai University		
米国	Boston University	The Federal Reserve Bank of Chicago	Boston College	他2機関

共同研究相手国	相手方研究機関			
メキシコ	Universidad Nacional Autonoma de Mexico			
その他の国・地域 香港	HKUST	The Education University of Hong Kong		
英国	The University of Oxford	The Education University of Hong Kong		